

シーン5

「はぁ……はぁ……ふう……♡」

「ふふふふ……♡ 精液いっぱい出しちゃいましたねえ♡ 私とキミのザーメンで水たまりができてますね。とっても臭くていい匂い。」

「そんなに良かったんですね♡」

「お疲れのようですが、突っ伏してないでこっちを見てくださいね♡ いよいよ最後の試練です」

「第四の試練の内容は、高潔を示すことですよ」

「ロウソクが燃え尽きるまで、誘惑に抗ってください。」決して自分からおねだりするようなことがあってはいけません♡ 誘惑に打ち勝つてこそ、キミ自身の高潔さが証明されるのです。これが試練の内容となっています」

「ふふふ♡ 今回のロウソクは……大きさは二倍くらいありますねえ♡ 太さは……私のおちんぼと同じくらいでしょうか？♡」

「とても簡単な内容です……少し我慢すればいいだけ、ですからね……♡ ええ、キミなら乗り越えられるでしょう」

「では、ロウソクに火を灯しますね」

「このロウソクが燃え尽きるまで絶対に“アナルでふたなりチンポをおねだりしてはいけません」

「ええ、ええ♡ 簡単ですよ？ ふふふ♡」

「これだけ大きなロウソクです、きつと私のおちんぼをキミのアナルにズボズボしてもらえたら、何度も、何度も絶頂することはできると思っても……」

「決しておねだりしてはいけませんよ？♡ ふふふふ♡」

「ああ、それと……言い忘れていましたが、この試練に失敗したら光の女神の使徒にはなれません。と同時に、キミは私のオナホになっていただきます」

「そうです……オナホです……♡ ふふふふ♡」

「おちんぼを奉仕するだけの穴になる、ということですよ♡」

「お口も、おても……もちろんそのケツ穴も全部使って、毎日おちんぼに奉仕するんです……♡」

「それくらいの覚悟は持っておいてくださいね♡」

「ふふ♡ 今キミの目の前にある、このガチガチに勃起したふたなりチンポ……♡ これをアナルに入れてもらいたいと思ってはダメなんですよ？♡ 仮にズボズボされたい、思いつき突き上げられたいと思ったとしても……自分から誘惑するようなことがあつてはダメなんです……♡」

「……あら？ あらあら……♡」

「どうしたのですか？ 自分からそんなにアナルを広げて……♡ そんなに私のおちんぼを入れて欲しいのですか？♡ いやらしく腰をくねらせるなんて……♡ それでは失格になつてしまいますよ？♡」

「……本当に、いいんですか……？♡」

「はい、信徒くん……♡ 今回の試練は失敗です……♡」

「キミは自分からオナホになる道を選びました……♡ とても残念です……♡ キミならば簡単に乗り越えられると思つていましたから……♡」

「ふふふ♡」

「なんてイケナイ子……♡ こんなにあさましくお尻を差し出すなんて……♡ ひくひくお尻のしわが動いていますよ？ 試練が失敗したのにも関わらず、期待しているんですか？」

「獣のように息を荒くして……♡ ええ、ええ♡ なんていい子なんでしょうか♡ これはご褒美をあげないと……♡」

「はあ……♡ とつても可愛い信徒くん……♡ 試練はダメでしたけど……私はとても嬉しいですよ……♡ では……期待通りに、ふたなりチンポで、キミのアナルを犯してあげますねえ……♡」

「んっ♡ ああっ♡ やっぱりっ♡ この穴最高お♡ んあっ♡ キミはいいオナホになりますよ♡ んっ♡ あんっ♡ 私が保証しますっ♡ んんっ♡」

「ふふっ♡ ふふふふっ♡」

「ああ、そうだ……♡ キミに、いいことを教えてあげましょう……♡ キミが信仰している光の女神様ってどんな方か、気になりますか？ んっ……はあ、ふふっ♡ とても美しく聡明な方だったのですが……今はふたなりに堕ちて、真なる神の孕み女となつているのですよ♡」

「そのおかげで、女神の加護を受けた天使も、全員ふたなりに塗り替えられてしまっているのです♡」

「ふふふふ♡」

「そうして天使たちは全員、快楽を信奉する魔物の一員になっちゃったんですよ……んっ♡ 信徒くんは先ほど、私のオナホになることを望みましたよね？ ふふふ♡」

「つまり、キミはこれから魔物のオナホ人形として生きていくのですよ♡ 普通の人間が、魔物と交わったら魔物に堕ちてしまうんですけど……天使の祝福をこれだけ受けたら、人の形を保ったまま、私に奉仕する存在になれます……♡」

「よかったですね？♡ ふふふふふ♡」

「ひと目見たときから、キミには期待していたんですよ♡ この子は絶対いいオナホ人形になるって……♡ 私の目に狂いはなかった、ということですね♡ んあっ♡」

「はあ、はあー……あ、んあ……フー、フッー……ん、んん♡ さあ、信徒くん♡ 人間からオナホに堕ちたお祝いですよ♡ んんっ♡」

「とっても可愛いオナホ、ふたなり天使のザーメンミルク専用のお尻の穴に祝福を♡ 欲望に堕ちただらしないキミにふさわしいどろっどろでくさい白濁液でぜんぶぜんぶ満たしてあげます♡」

「んんっ！♡ ああっ♡ 出るっ♡ 出るっ♡」

「んんんんっ！ んんううううううううううっ！……♡♡♡」

「んあっ♡ はあはあ、ふふっ♡ ホントに、気持ちいいオナホですね♡ はあ、はあ、ふう……♡ 何度でも犯してあげますからね♡ キミも嬉しいですよ♡ ああ……♡ 見てください……♡ 私のふたなりチンポは、キミをずっと犯せること、喜んできますよ？♡」

「全然萎えないの♡ ガツチガチの硬いまま……♡」

「キミは私のモノなので……ちゃんとマーキング、してあげます……♡ 精子まみれのおちんぼ♡ お顔に塗りたいくられるのも……気持ちいいでしょう？♡ そんなにトロけた顔をして……♡ ああ……♡ いいっ♡」

「おちんぼいっぱい欲しいんですよ♡ 体中、いろんなところ……ズボズボされたくて、たまらないんですよ♡ ふふふ♡ キミの大好きなおちんぼ……舐めていいですよ……♡」

「はい、どうぞ♡ きちんとお口で奉仕、してください……♡」

「んんっ♡ はあ、ふふっ♡ お口で、するのも……んっ♡ 上手になりましたねえ♡ん♡ はあ、くうっ♡ ためらわず、喉奥までおちんぼ飲み込めて、偉いですよ♡」

「信徒さんの体を、精液を摂取してさえいけば生きていられる体に改造しました♡ふふ♡ オナホにぴたりな祝福でしょ？ よかったですねえ♡」

「キミはもう、奉仕さえできれば……ほかに何もせず生きて行けるのです♡ ええ、ええ♡ 生まれ変わったキミなら喉奥ガンガン突かれても、気持ちいいですよね？♡ んっ♡ たくさんズボズボして♡ 精子いっぱい出してあげますねえ♡」

「ふつ、つぶあ、んんっ……はあ、はう……ふー、ふーっ、んっんん♡ あっ♡ いいっ♡ このオナホ、上の穴も、すごく、気持ちいいっ♡ んっ♡ んぐうっ♡ ガンガン突いてもっ♡ 絡みついて離れないの♡ いいっ♡ おちんぼ気持ちいいっ♡」

「ずっと締め付けられるの、気持ち、よすぎるっ♡　んんんっ♡　気持ちいいのきてるっ♡　止まらなくなっちゃうっ♡　ああっ♡　またっ♡　精子出るっ♡　出ちゃうっ♡」

「んんんっ♡　あつ♡　ああっ♡　んんあううううううううううっ！！！！♡♡♡♡」

「はあはあ、んふっ♡ お口もいいですねえ♡ 本当にいいオナホです……♡ ふふふふ♡ ほら、もっと欲しいのでしょうか？ 次はどこに欲しいのです？ あはあ♡ やっぱりアナルを貫かれるのが好きなのですね♡ もうすっかりおちんちんのおねだりが上手になってますね。とっても無様な格好でお尻の穴を晒して、いけないオナホくんですね♡ いいですよ♡ 私が満足するまで、何度もズボズボしてあげますからねえ♡」

「はあはあ、んっ♡ ああ♡ この、体勢もいいですね♡ んあっ♡ 抱え上げたまま、おちんぼ、下からガンガン突き上げれるの、すごくいいです♡ ふふふっ♡ キミのおちんぼ……♡ もう壊れちゃったみたいですね♡」

「あんっ♡ 突き上げるたび、ぴゅっぴゅって精子、飛び出しちゃってます♡ 私の体に全部、かかっちゃってますよ……♡ ホント、だらしのないおちんぽ……♡ ふふっ♡ 最初は痛がつてたのが嘘みたいですねっ♡ んっ♡ ああっ♡」

「ふたなりチンポ、気持ちいいですねえ♡ あんあん喘いで♡ ホント可愛い♡ これが欲しかったから、試練のことなんて全部投げ出しちゃったんですもんね？♡ ふふふ♡ ホント、人間って愚かですよねえ♡ おちんぼには誰も逆らえないんですよ♡ キミも私も……♡」

「ふたなりの気持ちよさを教えていただいた真なる神様にも感謝を……♡ ええ、ええ♡ 神の教えのとおりはこの地のすべての哀れな存在に、祝福をまき散らしましょう♡」

「ハア♡ ハアッ♡!!……くうっ! ん♡ んふう♡!! キミはもうこちら側ですかね♡ 気が済むまで中出し♡ してあげますよ♡」

「ああ……♡ また、いきそう……♡ 出しますっ♡ 出しますねえ♡ んんっ♡  
あっ♡ イクっ、イクうう……♡ んんんんんっっ！！！！♡♡♡」

「んっ♡ ああっ……♡ ふう……♡ まだまだ、出したりないですね♡」

「キミのアナルが心地よすぎるのが悪いんですよ？♡ ふふふっ♡ ほら、次は四つん這いになりなさいな♡ 後ろから突いてあげます♡」

「あらあらあら♡」

「ちゃんとおねだりできて偉いですねえ♡ アナルを自分の指で開いて、くばくばさせちゃうなんて……♡ ふふふ♡ ほおら♡ キミの大好きなおちんぼが入っていきますよお……んんっ！♡」

「奥までっ♡ 一気に、突かれて♡ 獣みたいに吠えながらするの、気持ちいいですよねえ♡ んんっ♡ はあ、ああっ……♡ 気持ちいい♡ 気持ちいい♡」

「ふふふっ♡ やっぱり、オナホのキミには、アナルズボズボされた方が、感じるんですよ♡ またキミのだらしないチンポから、精液垂れ流しになってますよお？♡ アナル突かれて♡ 喘いで♡ ぴゅっぴゅーって♡ 精液止まらない、ダメダメチンポ♡ ふふっ♡」

「ああ、そうだあ♡」

「私のおてで、キミのおちんぼシゴいてあげますよ♡ んふふっ♡ あっ♡ すごいです♡ さっきよりも、アナルの締め付け強くなってますよお♡ んんっ♡ 射精も、強くなってますね♡」

「びゅくびゅくって、床に勢いよく出てるの、すごいです♡ いっぱい跳ねちゃってますねえ♡ ふふふっ♡ んんっ♡ ダメダメチンポ壊れちゃった♡ 精液垂れ流しになってますよお♡」

「普通の人間ならすぐに死んじゃうんでしょうけど……♡ キミはいっぱい祝福されてますからね♡ 頭壊れるくらいの快感♡ ずっと味わっても♡ 死ぬほど好きだけ射精しても♡ 死ぬことはないの♡ 安心してくださいっ♡ ふふふっ♡」

「よかったですね♡」

「んあ♡ ふあっ♡……んっ、んあっ、はう……っふあ、んんっ♡！！ ああっ♡ また、出るっ♡ でるうっ♡ イクっ♡ 奥にっ、全部っ♡ 出るうううっ！♡」

「んんんんんんんんんんっっ！！！！♡♡♡」

「んあっ♡ はあ、はあ、ふふふっ♡ まだまだいきますよ？♡」

「自分で脚を持って、股を開くのです♡ ああ♡ いいですねえ♡ その恰好も素敵ですよ♡ いっぱいシてあげます♡」

「あああっ♡ いいっ♡ ガンガン押しつぶすのも♡ 気持ちいいですよっ♡ んぐっ♡ オナホいいっ♡ すぐく、具合がいいですっ♡ んあっ♡」

「ん♡……あ、あっ、あー♡……ふぐう♡ キミも私に押しつぶされて、感じてるんでしょう？♡ んんっ♡ そんなキミに、いいこと教えてあげますね♡」

「新しいおもちゃの人間を増やすため、キミのアナルは種付けができるようになっていますよ♡ 天使の祝福のおかげですね♡ んあっ♡ いっぱい中出ししてあげますから♡ 私の子種で、孕んでくださいねえ♡」

「あっ♡ あうっ♡ 急に、締め付けるじゃないですかあ♡ んあっ♡」

「そんなに種付けされたかったんですか？♡ ふふふ♡ 可愛いっ♡ ハア、ハア♡ ハアッ♡……くうっ！ ん♡ 種付けされるためにっ♡ 押しつぶされてっ♡ 感じちゃってるんですねっ♡」

「いいっ♡ ホントにいいですよっ♡ キミっ♡」

「キミのこと、オナホにできてよかったです♡ んあっ♡ 孕んでも♡ 何回でも使ってあげますね♡ くっ、んんっ！♡ ああっ♡ 精子っ♡ 登ってきましたよお♡ んんっ♡ はあはあ、しつかり孕んでくださいね♡」

「ダメダメチンポから、精液垂れ流しながらっ♡ 孕めるといいですねえ♡ あっ♡ もうっ、出ますうっ♡ トロトロにほぐれておちんぼ啜えこむドスケベ穴にっ♡」

「ドロッドロのせーしっ♡ 溢れるくらい出してあげますねえっ♡♡♡ んんっ！♡ ああっ♡ もうイクっ♡ イくうっ！♡ イっ、ぐうっ！♡」

「んんんうううううううううううううううううっ！……♡♡♡」

「んあっ♡ はあ、はあ、はああ……全部、こぼさずに、注いであげますねえ……♡ んっ♡ はあ……ふふふふ♡ 上から潰されながら、種付けされるのも好きなんです♡」

「本当に、可愛い……♡ 素敵です♡」

「はあ、ふう……キミの体が喜んで震えているの……全部私に伝わってきてますよ……♡ ふふふ、ふふふふふ♡」

「さて、そろそろ行きましょうか……♡ 他の子たちも、姉さまたちがオナホ人形に堕としてあげていることでしょう♡ 神殿の広間に戻って、また楽しみましょうね……♡」

「そのあとは……村に戻っても、天界でも、いっぱい、いっぱい♡ 擦り切れるまでオナホとして使ってあげますからね♡」

シーン6 エピローグ

ウルト「ああ、イリス……そっちはどうでした？」

イリス「ええ、ええ、すべて順調ですよ、お姉さま方……そちらの子どもたちはどうだったのですか？」

エリス「もちろん全員失格よ……ふふふっ♡ 今はみんな、可愛いオナホ人形なの♡」

イリス「ああ♡ そうなのですね……♡ では、みんなに……ご褒美と祝福を与えないといけませんねえ♡ ふふふ、ふふふふふ……♡」